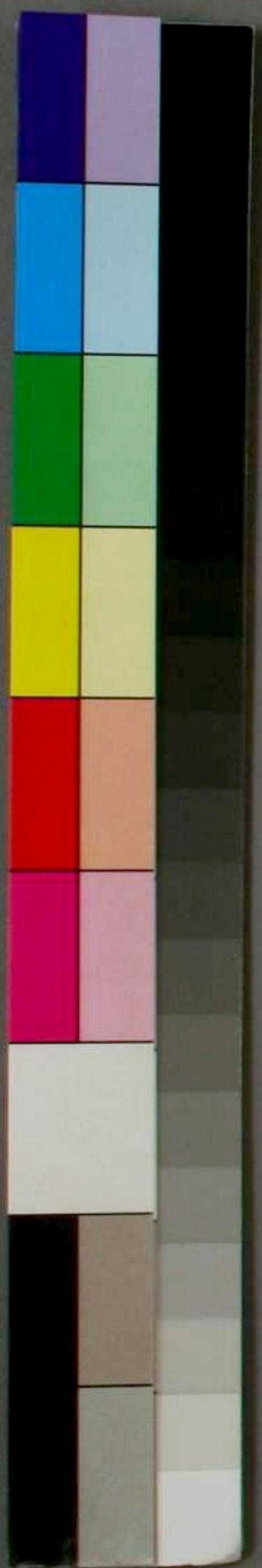


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

JAPAN

TABATA

ヤ
961
5



印
卷
號
5

961
968

ゆく事あるまでやうにけ
能前晚出

香月啓益纂輯

(西) 廣雅調續ノ流

ゆく事あるまでやうにけ
能前晚出

かく自と聞てゆく
須臾すゑと椅縛よ壁さへ先あらひ御
側外とくは膝とそのうよもくくのう
く壁すゑとくは膝とそのうよもくくのう
ゆく事あるまでやうにけ
能前晚出

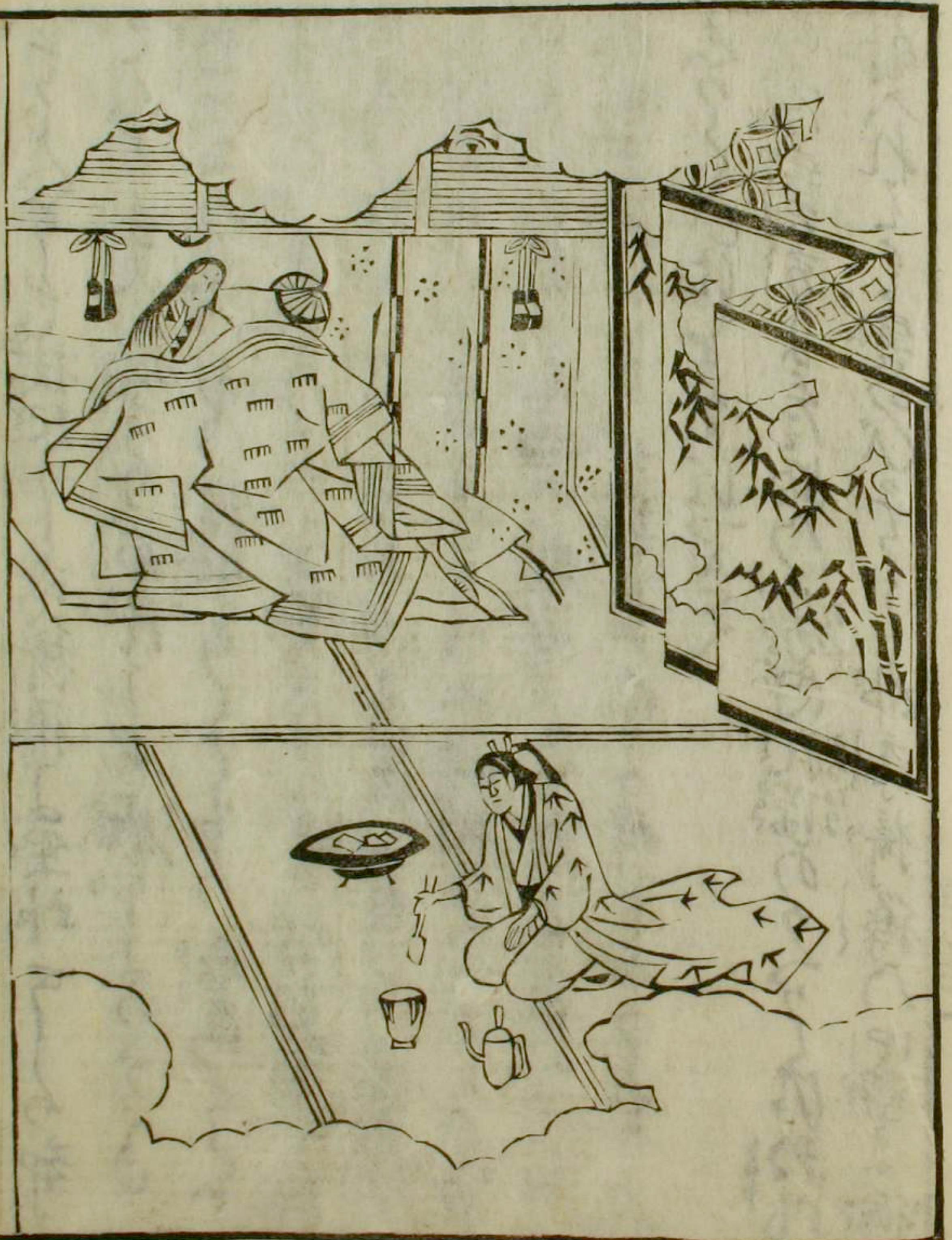
ゆく事あるまでやうにけ
能前晚出

安神丸一ひとあくまでやうにけ
能前晚出

とく呼^ハ一目とそら際^ハとぞめぬ神^{トモ}の
め安靜^ハよそを御^ハとぞへひそむす膚^{よし}と
そう事^ハとぞし^ハ山事^ハとぞゆゑとぞ血
量^ハ或^ハ種^ハや要^ハとぞるゆゑ^ハ走^ハ織^ハ
波^ハ波^ハも^ハ身^ハりゆく^ハも^ハれ^ハとぞく^ハれ
く^ハと^ハく^ハあ^ハり^ハつ^ハく^ハも^ハせ^ハれ^ハと^ハく^ハえ
ま^ハの^ハ通^ハ行^ハと^ハじ^ハと^ハい^ハく^ハと^ハお^ハれ
て^ハお^ハと^ハも^ハろ^ハよ^ハて^ハ持^ハひ^ハり^ハい^ハは^ハれ^ハと^ハお^ハれ
ゆ^ハり^ハ物^ハま^ハ月^ハを^ハま^ハま^ハと^ハハ^ハせ^ハ草^ハよ^ハく
か^ハく^ハく^ハは^ハ賊^ハ風^ハよ^ハあ^ハく^ハる^ハき^ハ余^ハ財^ハう^ハり^ハと^ハる
く^ハあ^ハと^ハこ^ハう^ハり

○産^ハ瘡^ハ方^ハよ^ハ產^ハ瘡^ハと^ハう^ハ金^ハ瓶^ハと^ハす^ハあ^ハ
の^ハめ^ハ補^ハ遮^ハ或^ハ硬^ハ炭^ハ或^ハ小^ハ圓^ハ石^ハと^ハあ^ハく^ハて^ハ
糸^ハ精^ハ中^ハよ^ハじ^ハく^ハく^ハ房^ハ中^ハよ^ハぎ^ハと^ハ一^ハ或^ハ
精^ハと^ハ產^ハ瘡^ハ中^ハよ^ハぎ^ハと^ハ一^ハ或^ハ舊^ハ漆^ハ器^ハと^ハ一^ハ
瘡^ハと^ハ中^ハよ^ハぎ^ハと^ハ一^ハ或^ハ舊^ハ漆^ハ器^ハと^ハ一^ハ
と^ハま^ハう^ハか^ハ朝^ハす^ハと^ハも^ハ往^ハく^ハ產^ハ瘡^ハと^ハす^ハと^ハの
と^ハ急^ハ利^ハよ^ハひ^ハる^ハと^ハり^ハ是^ハ酔^ハね^ハ收^ハ飲^ハう
と^ハと^ハつ^ハと^ハあ^ハき^ハの^ハそれ^ハと^ハま^ハ產^ハ瘡^ハ年^ハ血^ハ脈^ハ
の^ハ肉^ハ真^ハと^ハげ^ハ建^ハ造^ハと^ハう^ハま^ハ血^ハと^ハこ^ハめ
と^ハり^ハし^ハう^ハ理^ハう^ハく^ハと^ハあ^ハと^ハう^ハあ^ハし^ハ
と^ハあ^ハれ^ハこれ^ハと^ハ燒^ハう^ハと^ハぬ^ハと^ハぬ^ハよ^ハう^ハり^ハ

うりゆまとくみとくみのありを
往きぬる人公とされたりもを意め
或は至りしれす措とわらそひりことへぬるよ
とてふくゆとのありを附づくよとよとよ
とより餘喜兩り流す要月け法と用うること
齋居の外にてそまくもまとく齋居
ゆきり蓋て入るくらう 一切茶と蓋てしる
とくらのそとひり金のとものたとを寄るよ
とくらは齋居とて頬襟のうれいと生じ
立り縫の物面り流すり絆を知つてしる
○齋居方の事 ちくくと齋居よつてしる



立ちて坐起たお、或ひ稱縛なまの坐ざだア。又都
てくさくして心胸こころうちむねあり、拘縛なまして臍はらトよりくらゆ
ね汝ナされ、瘧渴りやくかつの絶食ぜきしょくとくらゆり、西瘧病せいりやうびやう
ろこれ、かくりとくらゆる三日され、也單血たんけつが
遂す乃のあふあふあとくらゆり、まひ法まひぢと用もちうもを産母さんぼ
の利りあうあいあよよももととくらく、拘縛なまととくく、
かくくくくと産母さんぼの股またよよくくあららるるみみ、
性質せいしつををびびううて、ああままれれるる脾ひままととくく
ああくくくくひひははととくくつつくく。

○產裏さんり方かたよ産母さんぼの産ぬさんぬり、傍肉わきにく孔あなありありつつ、内邪風うちやふう
射い入れいれて、害がいいびびきき、脚あし承橋ゆき縛なまに、鬱うつよ洞とう

縛なまととくくくくののああててととくくりり毛け産母さんぼのの單血たんけつ
脱ぬりりして、心胸こころうちむねかか外ほかれれ、ややととくくれれももくく、
れれどど夏なつ月つきをを無むうう財さいののらら、ととくくととくくくく、
下し夏なつ月つきのの產母さんぼ難むずかか易やすくく、
脚あしととくくひひよよて、脛面きやうめんととくくそくそくつつひひくく、
肩かたととくくそくそくととくく、
ああくくくくみみそそりりよよ、財さいのの近付ちかづけ、
よよ達たーーて、ああくくくくととくく、極きわをを極きわめめのの產母さんぼ、
ははののととくくくくるる。

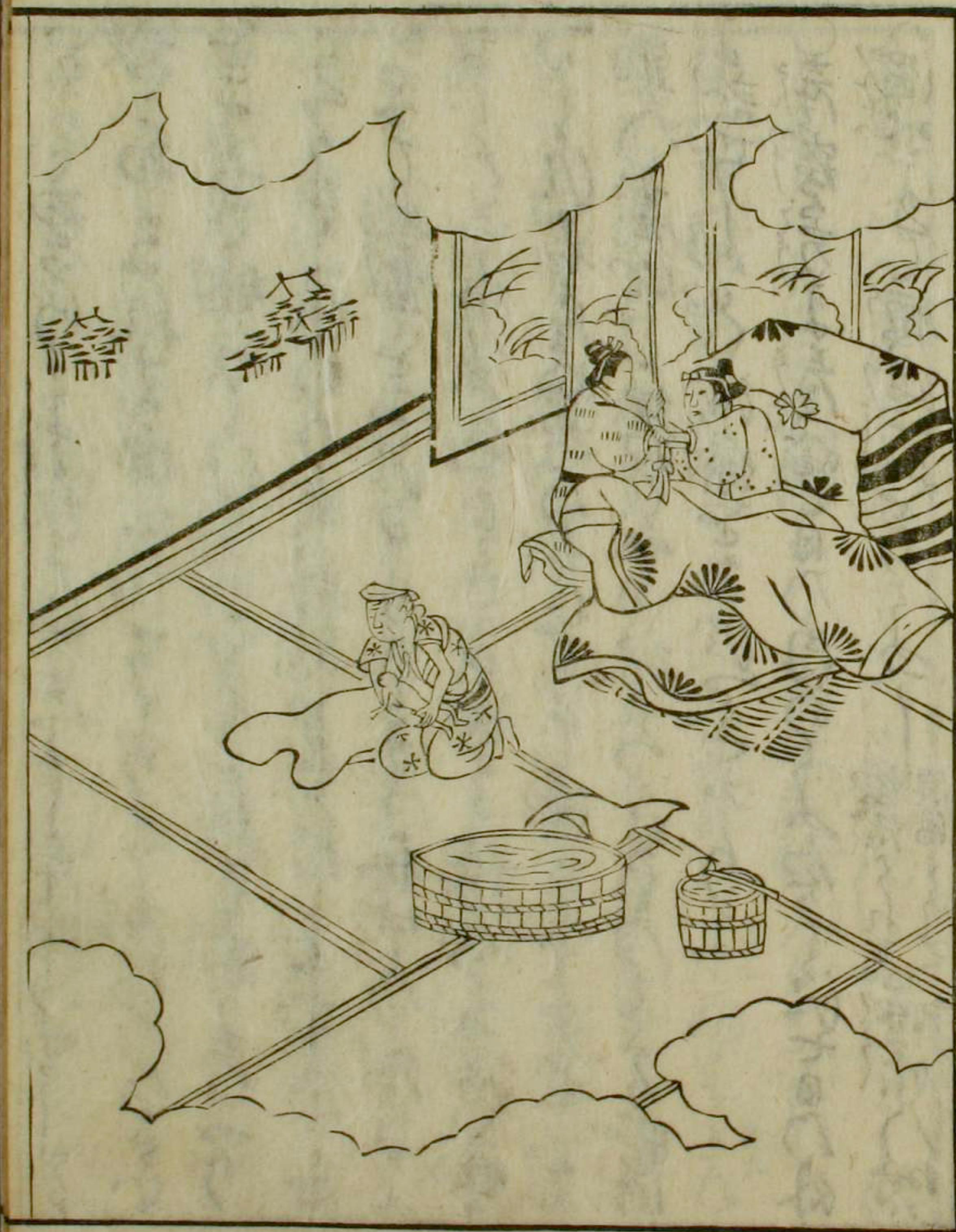
○婦人ふじん良よくく細ほそくくのの便びんりり使つかひひ生うままりり男男女めとと同ひとうう、
アアクク血けくくくく言こと詰づくく、
アアクク血けくくくく言こと詰づくくて、ままよよ池いけ、或ももも寝ね。

當と云ふ事うへてこれか病と云ふ事う
今せひりぬあめうり半日間もとせざんすと
称しきうちのよハ穢也と傳へてされ黙ふと
若て産母とうとうし或い是脇と云ふ
そり財公と云ふと若て産母と脇とてこれら
胞衣ちりて産母とて産母と脇とてこれら
ウリ穢也と傳へんと云ふと云ふと付ふと
○婦人良方より産の婦人云後と云ふとセ博
トモ自とらく安樂にて平時とて此
署とてしじてとまうそれ言ひつゝゆる
そりふもとと前へる言ひ財ハ女神とあら

ま波ううり國ともうとて拘とされハ精神と云
く事と耗也とうされく眼とく事とある
じる事とあるてせ間を産りありあれく潔也
りゆすらんとくゆくこそひきとくと産房よ出へ
とひ兎とくゆくこそひきとくと産房よ出へ
もうちなりけりゆくゆく禁と産房よ出へ
人り出へあくはいゆくゆくと容易の産子とあら
とくへ言候とゆくと女神と耗へえまば
やうすきれこれとくゆくれを必血量血運
り詫びとを産後は法病とくく難起しここ

能く知らるる

○音寢の方よぬ人音寝がうみて睡とうは御も必
附これと嘗醒近へとこれ妙法ありとミシモ
産婦^{さんふ}卒業脱^{そくぎやくだつ}（精神^{じんし}形体^{けいたい}）もよ修繕^{しゆせん}され産
婆^{おば}よりと好んで眠とうひありこれとわよ別
きう者生^ま人の難^{むず}睡^しとて産婦^{さんふ}のよ経^{たま}せよ眠
らししうそくひよりかくらとくされとえま
さりくわり精神^{じんし}下^げ脱^{だつ}（音^{おん}聲^{こゑ}生^ましろす
うとくおはのはの眠^ねと入て枚^{まい}をころよつて
候^{まわ}公^{くわ}と付てわくこれと嘗醒^{じようけい}とくとくこれ
とくとく音^{おん}と卒^{そく}ホラ^{ホラ}て聲^{こゑ}とくとく



いのちあらうじよじよじよじよじよ
筋よわよわれう輝とせやうらく産婦りひい
まうてく睡らうじ一もうそれと筋よねす
こうそくひあり或ハ難事とされてよこまほん
かまて血暈とまくさりとまく和中の産うと
うそくうれとキヤシモムルメモ傷ひうきは産
つらは産婦とおもととまく腰とうとまくえ
車の産服とおもととまく腰とうとまくえ
よ詮でくめく治療とまくとまく
産病方よ産ぬ七日之内あくよ産うとまく
ハ温水とて腰湯とあくよ一腰湯うれと体湯ノ時
腰湯とてあくよ

八月外うす下一百三十日内内房傳と云は
と云う是を概する言は虚弱え年衰歎す
ぬひ月ねよぬううには又夏月内産婦も産
信易のうと血下うるやかくえまむうと
手が手自らとくううの八日にはよ腰湯と
ほく一夏月夫妻の肉筋はよつて腰湯の
そり腰熱一産ぬもこれよ退腹をうるあり
却て余りくわきあうものより産婦まが
の虚えようと腰湯とよし必七日内外
かまううに日月はあくひくわく乃く
あれをゆまくよ治療ようして精神を養生

まろそしひよー椎^{シラカツ}櫛^{ハラタケ}櫛^{ハラタケ}櫛^{ハラタケ}櫛^{ハラタケ}櫛^{ハラタケ}
さう年^{ハサシ}腰^{ヒダ}ぬりゆもくつゝー産^{ハサシ}物^{ハサシ}難^{ハサシ}產^{ハサシ}
之^{ハサシ}虚^{ハサシ}弱^{ハサシ}傷^{ハサシ}ノ^{ハサシ}病^{ハサシ}と生^{ハサシ}病^{ハサシ}をもひ七日^{ハサシ}外^{ハサシ}
の^{ハサシ}よ^{ハサシ}それも^{ハサシ}腰^{ヒダ}と^{ハサシ}うしぬ^{ハサシ}一^{ハサシ}四日^{ハサシ}ね^{ハサシ}
ア^{ハサシ}も^{ハサシ}腰^{ヒダ}と^{ハサシ}うしぬ^{ハサシ}と^{ハサシ}浴^{ハサシ}と^{ハサシ}入^{ハサシ}て^{ハサシ}の
き^{ハサシ}産^{ハサシ}物^{ハサシ}腰^{ヒダ}と^{ハサシ}うしぬ^{ハサシ}あ^{ハサシ}ま^{ハサシ}ま^{ハサシ}い^{ハサシ}湯^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}
一^{ハサシ}育^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}く^{ハサシ}か^{ハサシ}は^{ハサシ}き^{ハサシ}あ^{ハサシ}り^{ハサシ}と^{ハサシ}櫛^{ハラタケ}
く^{ハサシ}は^{ハサシ}產^{ハサシ}物^{ハサシ}腰^{ヒダ}と^{ハサシ}うしぬ^{ハサシ}鹽^{ハサシ}水^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}み^{ハサシ}
屏^{ハサシ}風^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}く風^{ハサシ}又^{ハサシ}あ^{ハサシ}や^{ハサシ}よ^{ハサシ}て^{ハサシ}櫛^{ハラタケ}
つ^{ハサシ}よ^{ハサシ}と^{ハサシ}用^{ハサシ}一^{ハサシ}櫛^{ハラタケ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}と^{ハサシ}
捨^{ハサシ}得^{ハサシ}よ^{ハサシ}と^{ハサシ}一^{ハサシ}產^{ハサシ}物^{ハサシ}同^{ハサシ}お^{ハサシ}ら^{ハサシ}く^{ハサシ}神^{ハサシ}と^{ハサシ}安^{ハサシ}

○帰^{ハサシ}人^{ハサシ}蟲^{ハサシ}が^{ハサシ}よ^{ハサシ}産^{ハサシ}物^{ハサシ}ゆ^{ハサシ}か^{ハサシ}と^{ハサシ}櫛^{ハラタケ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}
虛^{ハサシ}弱^{ハサシ}乃^{ハサシ}うれ^{ハサシ}と^{ハサシ}うれ^{ハサシ}と^{ハサシ}うれ^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}く^{ハサシ}
如^{ハサシ}事^{ハサシ}と^{ハサシ}うん^{ハサシ}毒^{ハサシ}と^{ハサシ}刷^{ハサシ}集^{ハサシ}活^{ハサシ}張^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}く^{ハサシ}
血^{ハサシ}通^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}血^{ハサシ}通^{ハサシ}半^{ハサシ}後^{ハサシ}う^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}と^{ハサシ}、
治^{ハサシ}じ^{ハサシ}一^{ハサシ}ね^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}か^{ハサシ}う^{ハサシ}て^{ハサシ}ね^{ハサシ}毫^{ハサシ}あ^{ハサシ}ち^{ハサシ}よ^{ハサシ}ね^{ハサシ}乃^{ハサシ}モ^{ハサシ}
内^{ハサシ}こう^{ハサシ}戒^{ハサシ}め^{ハサシ}う^{ハサシ}と^{ハサシ}う^{ハサシ}産^{ハサシ}後^{ハサシ}ま^{ハサシ}血^{ハサシ}服^{ハサシ}ま^{ハサシ}
て^{ハサシ}精^{ハサシ}神^{ハサシ}虚^{ハサシ}弱^{ハサシ}され^{ハサシ}獨^{ハサシ}畜^{ハサシ}う^{ハサシ}肉^{ハサシ}あ^{ハサシ}か^{ハサシ}く^{ハサシ}れ^{ハサシ}

唐の爲を生ひうきの心津志の碑或ハ一處乃内
のてを産ぬとあひきりゆゑとぬくと付添て右症
例もアリ有つて産ぬと遺つて
○婦人産一からて後椅禱の性ノ膝と脛足と
屈て伸テ腰の外よりを撫しうるり是産後
一月の間乃復法より御うとわむ乃因信す
して復古より十日とハ椅禱の内ノ性セリめ十
百日あらう日と抱みテとく肩をうむ事トヨリ
始ニとゆくとこれ産法乃復法の事トヨリ
かく産後二三日とて血暈と四達の病され
食ひテ漸くよもと血下る事テ御立あらば

身の内うきは椅禱と腰湯とみて肩を打
ふれし一肩もあらうからうかうかのよハ豪
とてうひてあまうてあまとまくあくもだうくと
キうくとうくとほくと豪とみてよく治すよう
ふしてこまくと圓固とあて產物と安めらうと
一腰痛うそ公無アシラウミ際アシラウ椅禱と
ヒ血暈血透の病うければ仰伏アシラウと漏り
勢アシラウアシラウを釣高をアシラウめより
大切されりしてね目椅禱とくよくして産物起
例もアシラウは方體精神とモモ延續アシラウ
と腰痛と生ひう根筋アシラウと漏り

此種は食治の法

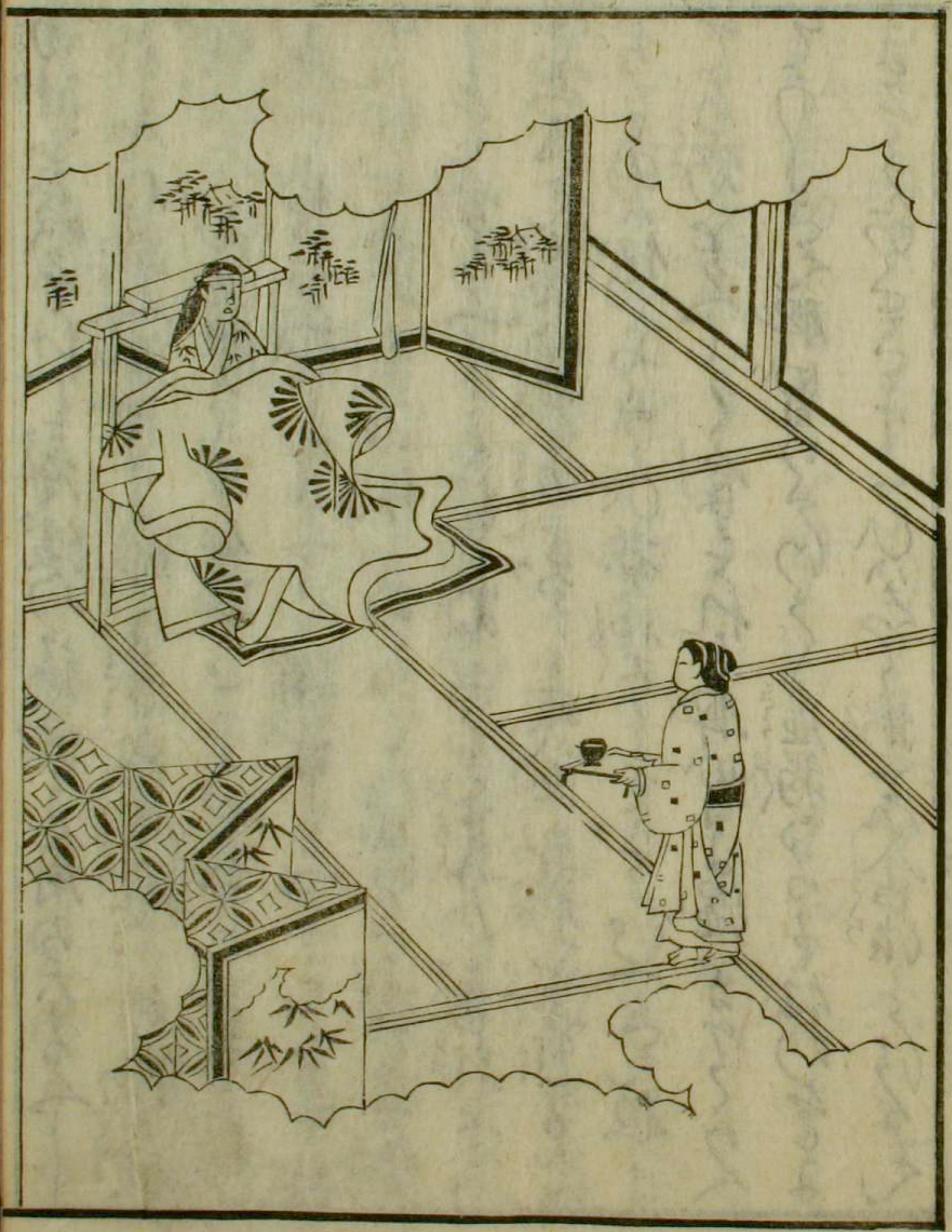
産婆方より人病ひをもとて血を童便湯を用
て食して渴めと解へばア頭里として産婆子と用
て壳と去腐とふ薑軟みて一枚とあく火へてある
く食ヒテアは硬きと用るるよりは白朮と食
ヒテアは頭子とされし産婆のかく神氣と用
家興の後すとされし産婆のかく神氣と用
うりア醉己乃後よの産婆のゆめ人脳虚寛うよ
難みと食ヒテア消化へかくもと熱ヒテア行け
廢物して癌病とまじはと云ひまじめ熱ヒテア
陳自水の後よ病ハ血とくらはれりとある用一

此種と多くて腹下利へてよく咸葷とすほど
ましめ病ひとされし産婆子虚氣ととては難みと
酒ヒテ薑白朮とあくこまくまく用るるのちひか
緋言より薑白朮ととては血とくらへ
れられをたぐひれとと産婆よこれと用の産婆ハ
腰血虛脱して瘀陽の熱やんもくゆりねるがよ
筋肉とくらへ衛へて血量の病あり童便と用
て利とくらへり血とくらへ病れどゆくと腰血脫
きをとくらへりとあられし陽氣もたよ脱皮へて
えを手附へて人病ひとくらへかきのわくらへ
うるゆ人獨參湯と用くと腰氣とくらへくと

極りのもの慢延されとく激熱と生じるの理
をもてこれをもじり病すを便と用る肉ハ
も害かびまく中醫の主病とては慢延後瘧
立とての寄葷されし必竟後瘧に至らひと
用ひ或ハ傷寒よりあらよ難みと用るのみ
一毫ともひ産瘧とやまとめとたよ藥自り
食ひゆ難みと食せしりものゑりあまり
のよめやまく難みは酒毒と用ひと殺セ
殺する醫作よううしとくの處
○婦人良方よ産瘧後瘧をもりよ白蘿ナガリと
もじてまろに飲食大忌とては肉味と進

二月八日後瘧と食主と云う元音ぬの食白蘿
とひまも軟よしてあつて一毫飽しりゆふれ
切れしりづきれぬあくとようとくとく
切れの圓滑りて産瘧の婦人よのれは腫硬
の體と末審行して煮て難免とくつゝへく酒
和く産下とくとくのまゝこれと用うなり鄙鄙
たまごうゆをもり難みと用うくわの
て察せまげぬうり醫作をよくこれと禁られ
たる事とれと食せしりづく脾胃とま血こう
きぬ人多害のー脾胃虛弱と血脈弱たるぬ
人えがねと食せしりづくとそくまじめと積要

胃始も食せられし血がこもりて血こうと血
のりありてもめてじ味酒汁をうじゆす胸膈よ
酒満て酒を啜はどりて醫膳軍の邊に立病り
をもとづくつよ鶏掌産姫の利わくよりと義は
ひぬ御船して消化いかで食よと新産り
婦すあくよまきめよとあくほむ朝りりり伏り
かくはくやうりりやうれむまくよよせんほ
そく圓盤のあやまちりまくらをうへる難处よ鶏手
産姫よまくとみまくとみまくよ産満月方成
活もくよば鶏手うへるまくよまくくへる等よ
せうりをまよや脣冒と肥し腸と脣よまくく



四種と我これらを看候後は御方より用ひるなり
新産の如く肝胃はよく余血虛弱の時や腫脹硬
調和の如く用ひるに能ひるをうりと申す
前も如く白粥とあつて調理とて一二日と達
ては新産の如新酒をあらじもし達と同と煮熟
して食とてもほ自身の毒氣を毒氣を去るを食
こととて産ぬまき事一或ハ至自粥と齋する
るもの以後とて之を煮熟してじよしよとお
て白粥とて一食それと肝胃は温とさくら
てあるとて脾胃はゆるく虚弱するを御つまよ
りとまかとてとてとてとてとてとてとてとてとて

是と同とてうりてうりてうりてうりてうりて
○新産の如く肝胃とてしよりふれ味
若えまき酒熟とてありまき草洞谷よも
今え草茎の酒熟とて形をまきえんや陰血
調和とて年と損とてうく人へよ毒とてうく
酒よみて用てよ害のとてうくかよても病の時
の年とてうくうくとてうくとてうくとてうく
とてうくとてうくとてうくとてうくとてうく
とてうくとてうくとてうくとてうくとてうく
とてうくとてうくとてうくとてうくとてうく
とてうくとてうくとてうくとてうくとてうく

て半と縫うまそりをもとめがくらんやれ。脛
ぬくよけあとのつまんやひそじこわ毒まく取
ひそじて虚脱の證宇とゆく消えうらり平
まのあくろひるよ卒自殺とぞきとぞきうらぬ
人産後はひあとのをとくよぬいとく虚脱と
生びうらものゆく能くせむつまゆく
○寒熱瘧ある是度後ハ飲食とつしして生冷り
そそじゆあ多博の肉味或は冷硬粘稠の朝れ
ああらひ酒或は茶のそしと食じへりはとく
倭俗產ほうりうとくとくとてれきにぬよ必
破茶と茶のそしとあつて害かばく

茶のまと下とくの眼とく病とく病とくのまと
ま血とく脱去とくし發生りえまされとく
とく用う財と害つてくは必須茶と禁じてあ
ゆうりうれ一ぬ人産は茶點と食じうりう
とく料準纏うとくとく能くゆくとく
○新産のぬくよる禁とくとく
食内生冷のそしとく病とくとく
ひま縫ぬのまは堅硬の食内 脊膜とくとく
の食内 混麺の事 健康素麺 菌の事 茄子
の事 鳴胡丸の事 痘瘡の事 本草とくとく
本草の事 鳴胡丸の事 痘瘡の事 本草とくとく
本草の事 鳴胡丸の事 痘瘡の事 本草とくとく

葛苣 蒜 茄子 トマトの小豆 橋爪根 梨 梅 桃 李

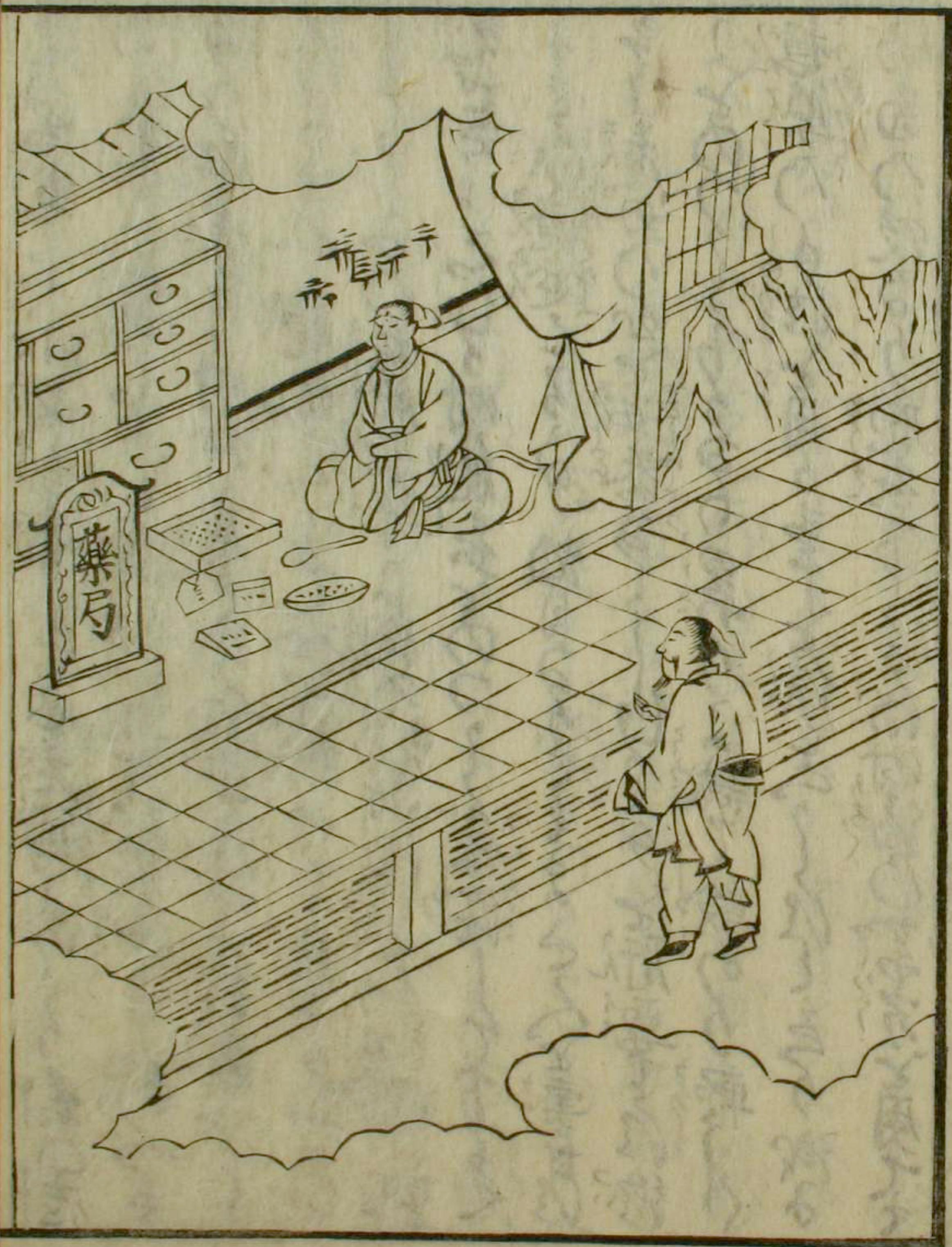
桔梗 酸酒かくらとくのもの食いつれも禁ふと

（ り ） くる車輦よ産後よ禁じる食物
高め一もひ影よ推奨かとくともくはもり
そろ食わとあつまつされそあくまくと腰痛
の持島とく食わとあくまく病にまくと
先折のゆまくめされを能くしむるを
力用うるの事 ） 麻兜ゆきとまひ事の宿

○西産後諸病の説

○郭積中の段よ産児出て胞衣落すとせよこ
れと息胞（本體これとえれゆも或ひどり）産どうりの初
力用うるの事 ） 麻兜ゆきとまひ事の宿

備とあよりて母出生こうりあくまく成ハ得
絶胞中よえと腰大ようりく下りとあくまくと
えりこれ皆産ぬかと用うるゆきよあくまくが
ありあくハ更生下もく小まく腹痛よして胞衣下
ろとくろとくに見出るとそのうち胞衣りハこれ
えま弱くねうりぬくら筋血よく一臍量
ウ患とくは佛の獨參湯山田の振葉等院
用一ノ胞衣ひくらもく二周ようりす日よ
ちよく危殆り症と知のじるくもくと治療
とくじてくり
○齊景方よぬくの百病生産うり焉（これ



痘科の難病癆瘍生よりまこと
已よ廢くちもりて胞衣りもより切ゆる
ふそく死藥石教燒湯あ奪令丹里神薦
萬が妙機准繩あよんどう或ハ滑石多藝みの數は某
のて押ひ下り一毛もすわらすりとぞれを
錦舌経て或ハ醫術舌口或ハ藥局あよん道場
ふそくある所とぞ連れて方民の病ありとど公主をもうけ
あとくら活きらうり宋朝徽宗醫教の時も然るう
よもと財父倉卒のうよほんかこじてそれ
今ひのうのう妙術ありとぞ、ちもりて胞衣り
れも產母液瘻とうらむよあく血又血流れて胞
中よへ胞血のうよ脹たようりて紅腫了術より

とひ喘ヒキ下ヒタ小股コウ急痛クニヤして必竟スレバ専アシナガよりうる若アラガい處
あく立ヒシテの臍ハラツ筋ギンとやも行ハシマリ難ハシマリどひ繫ハセタ臍ハラツ一イチ卦カタマリづき
う繫ハセタ臍ハラツ筋ギンと用ハサムく後アフタ繫ハセタて後アフタ卦カタマリづ
事アシタこれ胞ヒツヅ筋ギンと公ヒツヅと掩ハシマリて危ハラハラひ
して多ハラハラの血肠カズラ腔中カヌキノミダリよ闇ヒラカタマリ入ハシマリ
はせまヒツヅもしハラハラ胸ヒツヅ筋ギンとつヒツヅと癪ハセタて方アカシ
キアカシハ淹ハシマリどろハラハラひ数日ハラハラとをまごんと害せ
を産母ハラハラの公ヒツヅと安泰ハラハラうまハラハラと府ハラハラ要ハラハラと通ハラハラと
よめづくハラハラひの累ハラハラりよ試ハラハラて驗ハラハラめり軽ハラハラく
穩婆ハラハラのハラハラと用ハサム事ハラハラと信ハラハラとこハラハラとさハラハラと織ハラハラ
的ハラハラの後アフタ胞ヒツヅ筋ギンと公ヒツヅと用ハサムて

力ヒツヅされアヒト産ハラハラ焰ハラハラ血形體ハラハラをよ縫ハラハラ備ハラハラて児ハラハラも娘ハラハラ
て育ハラハラすと血ハラハラ通ハラハラよつて生ハラハラえハラハラと本自ハラハラ生ハラハラと下
らハラハラの財ハラハラ必臍ハラハラ筋ギンと彰ハラハラりはハラハラと用ハサム—ハラハラ君ハラハラ臍ハラハラと彰ハラハラ
されハラハラしハラハラ血ハラハラ臍ハラハラ通ハラハラかハラハラと高ハラハラかハラハラと臍ハラハラと彰ハラハラ
卦ハラハラと穩婆ハラハラと用ハサムてハラハラ—ハラハラ臍ハラハラ筋ギンとおもて
繫ハラハラしてハラハラまハラハラりハラハラめハラハラとおもてハラハラとハラハラと藏ハラハラ
卦ハラハラ—ハラハラと臍ハラハラ筋ギンと安泰ハラハラうハラハラしハラハラめ財ハラハラと彰ハラハラ
財ハラハラと血ハラハラとあつハラハラりハラハラ胞ヒツヅと下アヒトは蒸ハラハラ熱ハラハラ
の聲ハラハラと戰ハラハラうハラハラめハラハラと苦ハラハラ財ハラハラの氣ハラハラたハラハラとハラハラ半ハラハラ身ハラハラ
卦ハラハラと卦ハラハラと血ハラハラと財ハラハラと小ハラハラ痛ハラハラ八ハラハラ湯ハラハラ帶ハラハラ

益氣湯より加減として用ひる血と補ひそ
こそれも胞衣自然とおりたり或は股肉にて腐
碎して水ぬるとあらう形のとくかくして脚により
筋のものぬれぬれとまよまよと補ひ産婦の
心と安泰のとくしゆせんやも害のこたりて生ま
産ぬよ胞衣の落日からしてくる、ゆきとくり

○廣海方の胞衣りくがはまへ單衣とくりく
サのとと着てしきとくつよわらう産婦のとくに者
もくわらぬととりてませんとおとくすよと
こそ寝とくねて胞衣とのうへり産一や

とくとよ勢もとふをぬりか股と拘撃とされ
とれら下ろとくつう腰脛穏寧よぬもあり
てかよとくよかれと脚りうとく穏寧よ
ゆふとくりうのうされもまよ血虛弱のぬ
くよ穏寧かとくつよ股よつわくり或ひ血つよ
と下して拘撲どうとくひゆぬくよ血虚弱
とゆうと腰脙と筋一腰筋とくよと腰脙
と筋もくとく筋一腰筋一腰筋とくよと腰脙
くよとくよとくよとくよとくよとくよとくよと
胞衣りくとくりぬ

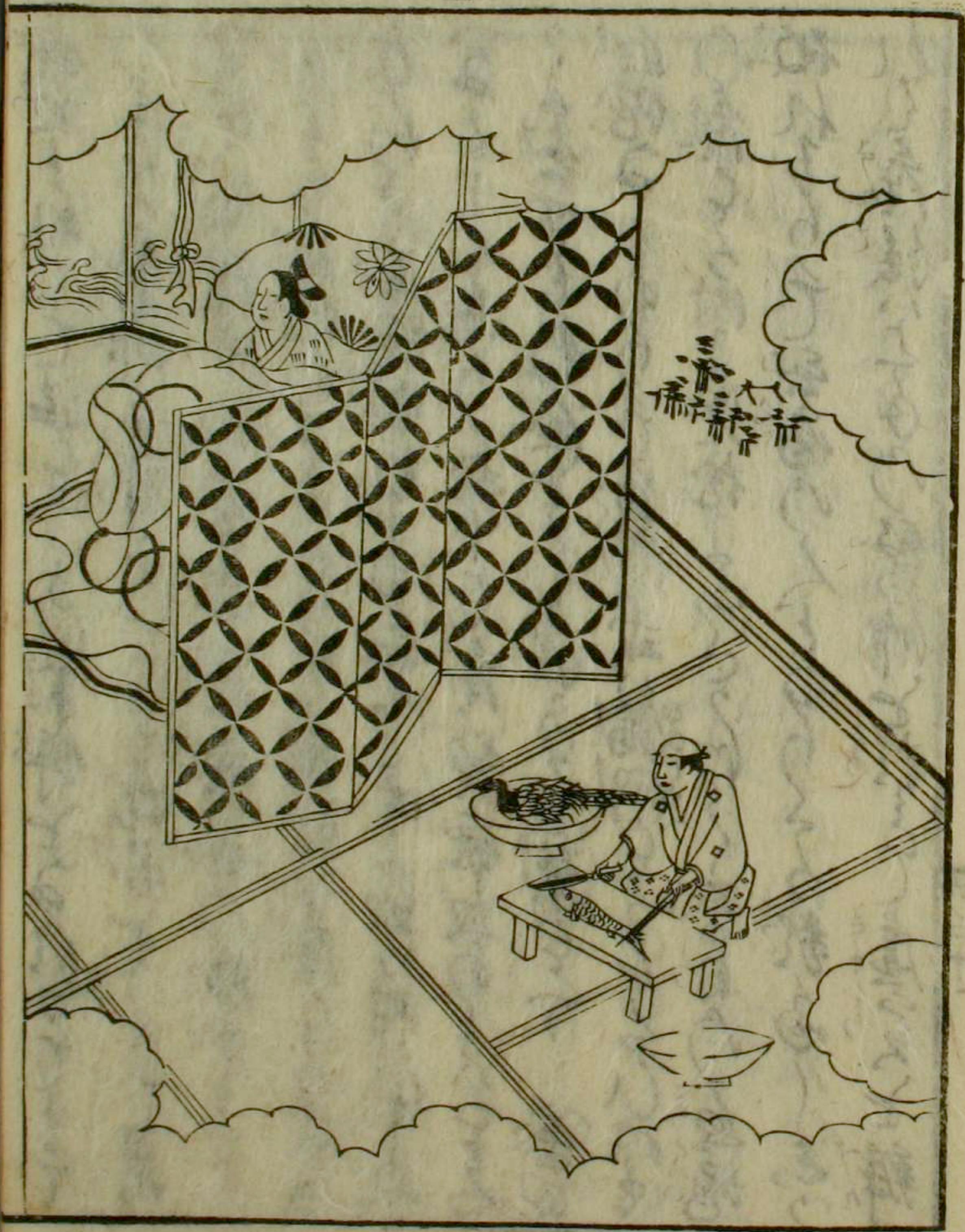
○婦人處方より産後血量ハ胎血漏て胎絆よ入る
より眼より生れと生く即ち旋量にて起りて
ありて是とは人よりとひて是とこれと
血量といふと神氣と角く必駿ありト血氣と
うしく活氣と用てトと云う

○郭稽中より産後血量ハ胎血漏と云ふと
安靜よりとえに血氣よりとて止
御一女神と迷亂とくともゆこありと云用
ひかと使く葷とくものわたりト血ナシて葷
ひくものありモ葷されコトとつとも治方ハ
うちかよ異てよ粹腫黃石子硬炭と燒てる

と決てこそ真と云ひて是ありと云う 薦已
の後よ血量よ虚量と云量とありと云う
虚量ハ產後汚血也すよ筋漏にて真えり
まト漏して血量と東極り金生活湯(葛根加
ち山田) 指事あササホと用ひ焉と曰ハ獨夫湯
と角し或ハ佛子あの人本紅花と加(或ハ補中益量
屬)と用ひく真えりまと上挽られて葷と
りつゝきもめうり脱血も一く人よりと云ひ
齒とくつらは禁眼とくもみの附ハ獨參湯と鼻
よりぬきつゝ一鼻をより通とせしむと云
はう(國)て主病のつり或ハ粹の壳或ハ七の根

よしとくひそひよへるゝ或は傷の人のよねく
てはようのことをうへる爲められ虚軍のもの外
ゆう氣病のそむきに詫つどそのまゝ一も二もと
り向こゑそが教ぬへりて産後二月半そり
内よもうう爲血のそれと先安法とひとそり
立軍の爲め虛軍の爲痛じうううりは財火失火あらび
龍丹つよ神お獨りを奪命あるのみ教と用く
もくやうう爲血と通じてこそまことに治療とあるま
つ或は治療運ととれいふとであく元こうの爲
暴うりとかく毒ほり血葷の爲痛い虛軍とどく

○患瘡の氣病されし醫作も心と勇ひて治療と
おも高めや、もく醫によしの醫作よやつ
て治療、こゝより
○馬益脚の症よ虚後欠伸とすばらす血虛
脱の候りととてりを知らむよりよかく伸、或
うの脚ひえきひづきとひづきてよよりの醫作よ
ゆく病く治と放とて、瘡房とて瘡の火炎
伸とすばらすれ必度焰も山羊よ感通とて放
○醉この症よ虚後小股痛とよとを傳よ每
力股中うす血うり瘡よ四十九痛又四十九痛



脇中ノ筋引と腰モモモチテ血をもとめしり失人失
血といふ血と遡るどれも必愈るべとひう倭
僧也枕痛とてひさよーにとりひき血を
まくらの上にてひそひよまく血とよだれ或は捨
くら御子猫の身常の数と食せじと
療血の症の用ひのちゆくやじへと若庵
ゆりとくら虚弱脾胃とくによきもの數と用
ひ内へと害物と脱血してすま血吸鑑で
て少股のじとのあり血と遡るに茶より
かほぬあ般建中湯樹人方八ね湯浦中益
のれよか減して用て驗とゆと必一概にて

巣外れて治して、又は薬餌とすらことをさう
のうちも醫師の尋ねても、おもとうとして用
てこそ郭筋中の症よ心経痛、毎の脇やよも
とくり血塊あるよよりて痛じて、産むるよも
たり血塊出でまへるとたよ出でて、何ばづれ
えりとみて、もて産婦に瘀血あるふともや
よもすを軽く血とすりと熱とて、重山
血塊すとありて、股痛或ハ端脚どうそくひれ
の巣らう附よ兜枕よもとくお自ら血塊
破れりて、無痛のとくりて、難易くあう
れを産後止とめ醫師とおもて、虚えと辨

て治療してくるの肝要なり
○産後子腸出く收まくあらの角一或ハ腰
の寒かきりのあり、或ハ腰内附生母腸を
筋して、腰出され産後まく收まくあらう乞み
くえま虚経にて下漏じうらの症うりえがと
用て下漏じうらあらかくあらうせあり、ホ
酔と水と加て産母の面よ疊けくし、腹
收まへるなり、又薑麻子四格丸粒と研て、産母
頭頂よ貼れし、腹收まよろを附もよ洗去一
と女科隼綱丁糞そり陰小室出しうるよ硫黃
陽方本草醫經と角い虚経りのよハ補中益

辛湯より升麻防風と倍加して用一と薦され
後よりもりよ荆芥藿香桔梗より煎湯或
枳壳より白朮より煎湯と云葉煎とこれと即
腸收止より君がとあるとて頭を百念力完よ
養じうる十壯されし必かきめうらうとおと繫
続すれどり

○丹波の延年院は度後院戸の内よりおありく
神とあらわゆる形からくわに也二夜よして寒江
を生ありて治とりもし丹波されどすすれみ
うん心ゆきま血弱して下腹をとらなりとて
升麻葛根葛根とふく術うつてこれとあつよ

す身うちらも手後事り業と暇とるゆニ方へく
ら腰門鶴膏て一声と差へされと身とれも腰へく
むるおこよ牧つとどうそく外席へとよなれ
肉一片掌へんさうら乾着うらも事あよを
て透汗へくみ膚撲へそれとすてされお膚へあ
てひときと告く丹波されとすてされお膚へあ
よあらぬ即摺拂うり肌肉へ被れる透汗へあ
くま血氣透うく必全へとてお膚湯と
そくよ人參と加てく百脉貼と飲へじと年代
のちユニ男ふと生びとてうれりもつは度
度よ腰門へ病へゆくあり腰門へ肉縫

三言するあり、或ハ子も母腸と穢縫つゝも
してあらうよもと下りて破損。胞損して
傷病とまし、或ハ便不穢少候うちよもと下
りのあり、或ハ子え一片と損傷してしまひま
猪肝よぬるあり、或ハ子え出くあ般おほのまくろ
りのあらうたよ治すよとて居まのきくと蘇
隼繩はやとよあらせらり今世も養元庵後子の隣となり
病めうゆくあり、ゆ人ひとがくわくよじ治療じりようとくに
より遙とがく敷ひらかよつるけあり、癌がんよ遇あくも
くちうそよより醫術いじゆとまつみて治ぢきよき
よ

聖産後乳汁うぶの說

○丈婦じよふ人胎じよたいによあう財ざいハ衝つけりニ經おこの血脉ちみゃくと胃いへ
經おこの血脉ちみゃくとそれと衝つけり、而ひて之をの
血脉ちみゃくと水穀みずくに積たまとたよ乳汁うぶと化なして温ぬる
れ出だき、而ひと緩ゆるく生縮せいしゆくとされ、陰陽自獨いんようじくり
がたり、もと氣きと心こころの氣きまつり化なる所ところを産後さんごある
乳汁うぶと通つなせ、而ひて二日ふたひよりこれを乳
房うぶ必ひずらす事こと無む出であり、二日ふたひよりを胸むねに
よ念おもして、乳房うぶとりもやくけた七家しちけをうちり、女めす
あり、而ひて思おもひとあらううり産後さんご一

あ育とどぐれを必乳房よと付へ一乳ナラリ
そろはりとやつけされし乳房腔敷下て脣
のこゑを數とすにゆゑ一絆をかひつらひ
○陳玄擇ハ況よ養婦乳汁遍せニテヨニシテ
キムシテ通じて壅瘻してけらわり又乳瘻
弱よして闊とてけらばかりのあり虚瘻のハ
補一乳をもんハ既得とく一醫うすりの又
通草漏薦去血根ハソシヒト用一虚瘻
身のよハ嫌成ハ達乳粉猪蹄鷄羹雞肉等
シヒト用一と云う
○婦人良方ヨリ乳汁也よ捺ほるヲみられ寒機

○乳汁出でりと云うと乳食母乳
汁盈溢するときハ東壁去壁ちどり之によ後も
一と云う

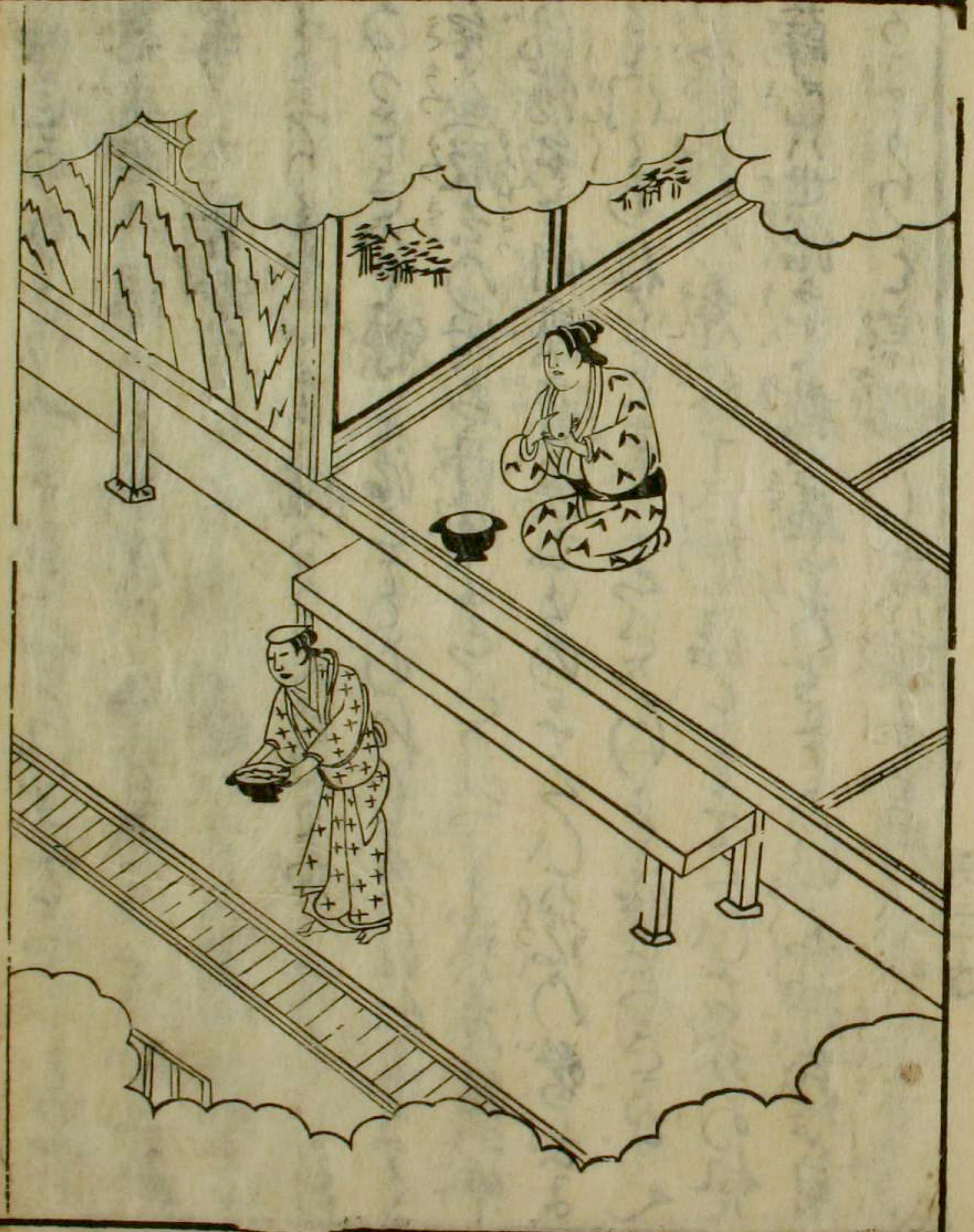
○薛已ノ汗よ養母乳汁サヨリのハこれ辛膚
内もじてよろく脾胃と壯とく一乳汁を
宋食の他もよつてハ乳とより不つあり
てハ經とほ若敷乳汁人乳汁ナキハ津浦ち
ウがりと云う乳汁と通じる葷湯法の醫也
ヨミ高くウセラリ上よれ醫作よゑく治療
ともハ一倭俗乳汁通セキアヨ葉と用ひと云ハ
程文通じるをうしててくらく乳汁とあるモ

産後あくハ茶と服せりがへめく従うあるにうち
産母病あり时も茶と服せり故にかよつて能
坐らるゝ

○婦人産後は産後乳汁とのほろりちものも曾
りまは虚し胃とおなかの茶と服してこれと
一着乳汁あく従うて多痛せしと温帛とふ
これと熨とて甚もするやうにまくすせりが
前より乳汁あくちりのあくとれと乳汁と
ぬく生るを必生育こうゆるをとどきり

○禁産後撮書活法の法

六三十五



難病ありとつとも未だこれよ活とアリとつて
徐々南へ往つてこれ丹波へ海へまつたといひて居
果て醫術あることを書互通て活廢と云つて
と云ひて素向よも續うるところをかと活と云
ううと云ひて標と活ととあれも產後附病ふく
全血脱去の附を丹波へもとくつゝと云は産後の半
身傷害と創瘡瘍瘻うそのをひびきの活とと云ひ之
止神あり産は十八活と活とくさくひじかの方あれ
薦已ハ世俗を蟄處うえと云ひて神薦と用
くようりを害黙し或ハ難みと曰人或ハ疾案

新内也病は又禁どうん藥を與ゆる成活の肉味と用り
是をも津波とがくを若と用ひ其後も之と用ひ
かよ産後りゆくらぬと云ひてと云ひてと神教難み
詮味肉味と差く却云うと云ひてとあれもと實より
うちもとよもとよもとよもとよもとよもとよもとよもと
て産後と御れども云ひて
○千金力と産後七日以内に薦下泥をどうとすら
れは其と腹と腰と云ひては薦下泥をどうとすら
て其肉湯と云ひてと云ひて是と云ひてと云ひて
とえまえまえ形體薦下泥をぬく人産後病高
きと云ひてこれよもとよもとよもとよもとよもと
よもと云ひてこれよもとよもとよもとよもとよも

すりかまよ徳病擇起とくのされとよきの醫
所あるとく治療とく

○ぬる人處方の産後ゆへ取と様り或は自己よ腰
と薦と足と腰と頭と手足と脚と三ヶ月の内
止むに止むと云う是もとく産婦の虚症を止
くべし虚症と百日とひきとア病ありつゝ八
日程よりからくとく能と知れども
○朝氏より経よ産後血氣をとくと筋肉を
まはぬ人或は産後血熱ゆけぬ物分身に産氣を
辛と痛と重ととてう産後血氣りりと百日
止まとうとく漸くよもえうとくうとうとくに

○着産後血りうのれ日やまは或ハ嘔吐とくとく
大切ううことと知くとてうの醫術とくのとて
あくと血ととて先或ハ風邪の嘔吐とてもよく治
療とてとくじ二病の産婦よとく外つと癒す
能くとくとく

○ぬる金方よ允産後百日よ滿て支婦とくとく
それと死よううとて虛羸一一百度解とくとく
アヨモとくとく虚羸よとくとく一虚羸とくのと
必一年半年う自殺とくとく支拂とくとく戒め
院よ宿宿よとく始めゆくの産後り揚まほ津
とじと飲食起とくとくとくとくとくとくとくとく

おらの事とうりくも、ひろにうるみれを陽
豊澤處の病よして房とれこれゆのつみこすまう
とまうゆの生のものばとそりんしてをはよ
後食起卧房紙とつししどハ形体壯精神
充満よしてをあらまうりきみうとまう

脚人集草卷下六編

享保十一丙午年
發行

京寺町通
勝村治右衛門
大坂心齋橋通
高橋喜助

寛政八年
丙辰四月 補刻

同
藤澤重兵衛

